



ALPS処理水の処分に関する 安全対策・風評対策の最近の動向

トピック集 2023年11月

販促・魅力発信

- 11月3日～5日の3日間、**兵庫県の城崎温泉**において地元観光協会が中心となって「**がんばろう北海道！城崎温泉ホタテまつり**」を開催。
- 温泉街で観光客等に対して**約6,000個の焼きホタテを無料で提供**した。

イベントの様子

- 日程：11月3日（金・祝）～11月5日（日）
- 場所：喜多町駐車場（豊岡市城崎町）



▲焼きホタテ



▲イベントポスター

- 三陸常磐エリアの豊潤な海の幸を多くの方に知っていただき、味わっていただくための施策として「**ごひいき！三陸常磐キャンペーン**」を**2022年10月1日より実施**。
- 2023年11月には、**スーパーマーケットの文化堂（東京都、神奈川県）**において**三陸常磐海産物の販促キャンペーン**を実施。
- また、大手コンビニエンスストアである**セブン-イレブン、ファミリーマート、ローソン**とのコラボレーションで「**いつものコンビニでも、ごひいきに！**」キャンペーンが2023年12月5日より開始され、三陸・常磐の海の幸を使用した各社オリジナルの商品が順次発売。11月28日には**プレス向け発表会**が実施され、**西村経済産業大臣、コンビニエンスストア各社代表取締役社長らが登壇**し、今回発売する商品の紹介や試食を行った。

イベントの様子

Bunkado



文化堂（東京都、神奈川県）



「いつものコンビニでも、ごひいきに！」プレス向け発表会の様子



- 水産業全体の販路開拓及び三陸ものの安全性や魅力に係る情報発信をするため、風評に負けず輸出事業を推進している事業者の水産加工品やその商品に込められたストーリーを紹介・広報。
- 具体的には、阿部長商店（株）のメカジキや（株）越戸商店のイクラ、仙台漬魚（株）の銀鱈の味噌漬け等の水産加工品を対象に、「Japanese Seafood & Culinary Tasting Exhibition」を10月30日にシンガポールにて開催。
- レストランオーナーなどをターゲットに試食していただき、対面での商談を実施、日本食に関心が高い参加者に対して、三陸地域と三陸水産物のPRを行った。
- 高評価が得られた商品は継続して商談を行う予定。このような取組を通じて、今後も販路拡大及び情報発信を継続していく。

「Japanese Seafood & Culinary Tasting Exhibition」の開催模様



- 新潟県で6店舗展開する「すし道楽」において、宮城県産水産加工物の更なる消費拡大を図るため、「**宮城フェア**」を**11月1日～30日の期間で開催**。
- **三陸産「みやぎサーモン」、気仙沼産「メカジキ」、石巻産「ほたてグラタン」等を期間限定で販売**。
- 本フェアにおいて、宮城県産食材の魅力を発信した。
- 今回のフェアをきっかけに、継続して宮城県産水産加工物の取り扱いを実施する予定。

宮城フェアの開催模様（すし道楽）



- 福島相双復興推進機構では、「6次産業化等へ向けた事業者間マッチング等支援事業」において、福島県産品の販路拡大に向けて、企業間取引拡大に向けた**マッチング支援や小売り・イベント等による販売促進支援を行っている**。
- 本事業における水産加工事業者と流通事業者のマッチング支援の結果、以下のような成果があった。

販路開拓支援成果（事例）①

- 豊洲市場内に期間限定でオープンしている「三陸常磐 夢市 楽座」にて、海幸の「しまほっけ開き」、マルショウ櫻井の「めひかり丸干し」が成約、販売開始。
- 同店舗は、豊洲市場の水産仲卸業者で構成する東京魚市場卸協同組合が運営し、一般来場者が、プロの目利きで選んだ三陸常磐物の鮮魚などを購入可能。店舗は来年2月末まで、原則毎月第1・3土曜に開催。



販路開拓支援成果（事例）②

- (株)モスフードサービスの運営する和食レストラン「あえん」にて、佐藤水産の「ボイルやなぎだこ」、マルリフーズの「松川浦産あおさ海苔」、マルショウ櫻井の「めひかり丸干し」、海幸の「しまほっけ開き」が成約。
- これらは同店の冬メニューの素材として活用され、東京都内4店舗（自由が丘店、伊勢丹会館店、目白店、大崎ThinkPark 店）にて来年3月7日まで提供される予定。



冬の竹籠ご馳走膳
(ボイルやなぎだこ、松川浦産あおさ海苔、めひかり丸干し 使用)



あえん 自由が丘店

- 11月8日～12日の5日間、**JR大宮駅の西口イベントスペース**で開催された「**南東北産直市**」に、福島相双復興推進機構の主催で、福島県の水産加工品の販売会である「**常磐大漁市**」を出店。
- 本イベントでは、福島県漁連をはじめとした**福島県の水産加工業者等9社**の商品を販売。また、**11・12日には佐藤水産の「海苔の佃煮」、マルリフーズの「かけるあおさ」、福島県漁連の「かつおフレーク」の試食を実施**。試食いただいた方にはアンケートにご協力いただいた。
- 開催期間中は毎日多くのお客様が来場。お客様からは「福島を応援しているので、何か買おうと思っていた。頑張っ！」「メカリが大好きなので、ここで買えるのは嬉しい。」といった、応援する声が多く寄せられた。

常磐大漁市 南東北産直市in大宮駅



会場の様子



試食を実施した「かけるあおさ」
（「調味料選手権2023」2位受賞）

- 12月1・2日の2日間、大阪府で店舗を展開するスーパーナショナルにて、福島県の水産加工品の販売会である「常磐大漁市」を開催予定。（3店舗で開催）
- 本イベントでは、常磐ものの水産加工品を大阪府を中心とした消費者に味わってもらい、販路拡大を目指す。**福島県の水産加工業者6事業者、7商品を販売予定。**

常磐大漁市 in スーパーナショナル

日時：2023年12月1日（金）・2日（土）

場所：スーパーナショナル

（八幡屋店、南港店、森小路店の3店舗）

イベントURL：<https://fukushima-challenge.go.jp/event/jobantairyochi2023-8/>



スーパーナショナル 八幡屋店

【主な出品事業者（主な販売商品）】

- ・佐藤水産（ボイルやなぎだこ）
- ・海幸（しまほっけ開き）
- ・マルリフーズ（冷凍あおさのり※冷蔵販売）
- ・丸上（イカボール・たこボール）
- ・センシン食品（冷凍生しらす※冷蔵販売）
- ・おのづか食品（さば味噌煮）

※予告なく事業者または販売商品を変更する場合がございます。

【商品POPイメージ】



- 10月28日～29日に、米国・ロサンゼルスで開催された西海岸における有力日本食イベント「Japan Food Expo」等にて、日本の水産事業者7社による**水産品プロモーションブースを設置**。来場した**バイヤー及び一般消費者 延べ2,300名超**に対して、試食サンプルを提供し、**北海道産ホタテ、ウニ、イクラや愛媛県産の鯛、マグロをはじめとした水産物の販路開拓支援及びプロモーション**を実施した。
- 一般消費者からは、「日本のシーフードは美味しいと認識していたが期待を上回る美味しさだった」等の評価が寄せられるとともに、バイヤーからは、「米国に流通していない新しい商材が多く出品されており、サンプル品を持ち帰って、社内で取り扱いを検討する」といった声のほか、中南米より参加したバイヤーからは、「中南米では、これほど多くの日本の事業者と商品が集まる場がないため大変効率よく活動できる。特に冷凍冷蔵の商品サンプルの入手は容易ではないため大変よい機会だった」とコメントがあり、水産事業者の販路開拓に繋がる取り組みとなった。

「Japan Food Expo」の様子

Japan Food Expoの様子



試食提供とともに現地で購入可能なECサイトの紹介による販売促進



北海道産ホタテのサンプルに並ぶ一般消費者



- 10月29日に、オランダの水産専門ECサイトであるHokkai Suisanが開催したオフラインの販売促進イベント「Open Day」において、水産関連商品を中心に、ECサイトと連動したプロモーションを実施。
- 当日は、**JETRO支援のもと調達に繋がった北海道産ホタテ及び宮城県産カツオの試食ブースを設置し、約1,000名の来場者に試食サンプルを提供**。Hokkai Suisanではこれまでホタテは取り扱っていなかったところ、**北海道産ホタテを用いたプライベートブランド商品の開発**に至り、本Open Dayの場にて販売を開始した結果、**全商品の中で2番目の販売成果を上げ、現地消費者の人気商品**となった。
- さらに、本Open Day開催にあわせ、Hokkai Suisanではオランダ国内向けの**新ECサイトをローンチし、北海道産ホタテ及び宮城県産カツオ等のECサイトでの販売も開始**。オランダ消費者向けの継続的な販売拡大に向け、取り組んでいる。

「Open Day」の様子

Open Dayの様子



北海道産ホタテ及び宮城県産カツオの試食ブース



北海道産ホタテを使用したプライベートブランド商品



- 11月11日～12日に、米国カリフォルニア州で開催された「Anime expo chibi」（※本年度は、日本のアニメをはじめ、Jポップカルチャーや日本文化に係る情報が紹介され、**日本に対する関心の高い一般消費者が、2日間で延べ2.5万人以上来場**）において、日本の水産品の試食プロモーション及び販売拡大支援を実施。
- **北海道産ホタテの試食サンプルを1,000名以上の来場者に提供するとともに、飲食店らの出展事業者と連携し、北海道産ホタテを取り入れたメニューを販売**。日本産ホタテのおいしさと新鮮さをPRのうえ、**現地で購入出来るECサイトを紹介することにより、日本産ホタテの販売拡大を支援**。
- 来場者からは、「日本のホタテは驚くほどおいしい」、「自宅で調理して料理に取り入れたい」などのコメントが寄せられ、**日本の水産物のプロモーションに寄与**した。

「Anime expo chibi」の様子

Anime expo chibiの様子



北海道産ホタテの試食サンプル



北海道産ホタテを使用したメニュー例



- 11月11日～17日にかけて米国・サンフランシスコで行われた「APEC経済リーダーズウィーク」期間中、**水産物等をPRする①APEC CEOサミットでのブース出展、②日本産水産物のPRイベントを実施。**
- ホタテを中心とした日本産水産物の特長やストーリー性について、現地政府関係者やメディア向けに広く発信した。

「APEC経済リーダーズウィーク」にて水産物等をPR

①APEC CEOサミットでのブース出展

- ・ 開催日：2023年11月15日（水）、16日（木）
- ・ 提供品目：北海道産ホタテ、福島・岩手県産の酒類（日本酒、ウイスキー）等

②日本産水産物のPRイベント

- ・ 開催日：2023年11月15日（水）、16日（木）
- ・ 会場：Palace Hotel（サンフランシスコ市内）
- ・ 招待者：James Beard財団所属のシェフを中心に、インフルエンサー、メディア関係者、ディストリビューター（計162名）
- ・ 提供品目：北海道産ホタテ、青森県産サーモン、愛媛県産真鯛、鹿児島県ブリ、岩手県産ウニ等、青森県産のりんごジュース、福島県はじめとする東北地方並びに日本各地の日本酒等
- ・ 内容：
 - ✓ James Beard賞受賞シェフ監修の下、ホタテを中心とした日本産水産物を現地シェフにも受け入れられやすいよう、西洋風にアレンジした特別メニューを開発。試食提供を通じて、日本産水産物の特長やストーリー性を政府関係者やメディア等にPR。
 - ✓ 来場者からは、今後、自分の店舗でも使用したいとの声や、会場に用意したQRコードを読み取り素材情報を求める姿が見られた。
 - ✓ 日本からは岸田総理が来場してスピーチや料理試食を行った他、鈴木北海道知事がビデオメッセージでホタテの魅力のアピール。



①APEC CEOサミットでの出展ブース



②ホタテ等日本産水産物の特長を特別メニューと共に紹介



北海道産ホタテの柿とチリのソース



ホタテ茶碗蒸し
ウニソースとキャビアがけ

- 11月13日にベトナム・ハノイで開催されたスタートアップイベントで日本産水産物PRブースを設置。西村経産大臣とベトナム・ズン投資計画大臣がPRブースに来訪し、日本産水産物の美味しさを呼びかけるトップセールスを実施。

ハノイのスタートアップイベントで水産物トップセールス

- ・開催日：2023年11月3日（金）
- ・会場：ベトナム・ハノイ
- ・概要：スタートアップのピッチイベント「Inno Vietnam-Japan Fast Track Pitch 2023」で日越閣僚、越・ASEANのビジネスシーンをリードするスタートアップ・エコシステムのリーダー約240人に対して日本産水産物をPR。
試食では、北海道産ホタテ、北海道産イクラ、長崎県産ブリ愛媛産タイ等を提供。
加えて、兵庫県、石川県等の日本酒8銘柄とウイスキー、焼酎、梅酒の計11種も提供。



西村・ズン両大臣がホタテバター焼きを試食



レセプションで参加者に5種類の試食を提供

- **11月16日～17日、7か国・7名の海外バイヤーを招へいし、沖縄大交易会と連携したJETRO食品輸出商談会**を開催。28の都府県より58社の国内事業者が参加し、日本産農水産物・食品の輸出に向け、海外バイヤーと2日間で延べ122件の事前アポイントメントによる商談を行った。
- 商談に参加した企業のうち、**水産品・水産加工品を扱っているのは14社で、海外バイヤーと延べ30件の商談を行った**。そのほか、岩手県（日本酒）、福島県（麺類）、茨城県（干し芋）の企業がそれぞれ海外バイヤーと商談を行った。
- 商談会前日の**11月15日には、海外バイヤーによる沖縄県の企業視察**を実施。訪問先の一つとして、糸満漁港で沖縄県水産公社が開設した**地方卸売市場のイマイユ市場で、マグロ、イカ、エビなどを扱う衛生管理の行き届いた最新の設備を視察**。さらに、**沖縄県企業のもずく、海ぶどうを海外バイヤーに試食**してもらいながら、輸出の可能性を探った。

企業視察

実施日：11月15日（水）

水産関連の視察先：

- ・水産事業者（もずく、海ぶどう）
- ・イマイユ市場（糸満漁港）（マグロ、イカ、エビ）

<海外バイヤーの声>

「現場で直接生産者と顔を合わせることができ、新鮮だった。」「現地では、オンラインや資料では分からないことが直接体験でき、今後の市場へのアプローチの助けになった。」



糸満漁港のイマイユ市場
（地方卸売市場）視察



沖縄県のもずく、海ぶどうを試食する
海外バイヤー

JETRO食品輸出商談会 at 沖縄大交易会

実施日：11月16日（木）～17日（金）

会 場：沖縄コンベンションセンター 会議棟A「会議場A2」

バイヤー：7か国から7名のバイヤーをJETROで招へい
（英国、スウェーデン、米国、チリ、カンボジア、マレーシア、フィリピン）

参加企業：58社（うち、水産品・水産加工品の取扱企業14社）



チリバイヤーとの商談様子（海藻）



フィリピンバイヤーとの商談様子（牡蠣）

<商談事例（一部）>

- | | | |
|---------------------|---|----------------------|
| 東京都企業（冷凍ホタテ、ウニ、鮮魚等） | × | バイヤー（英国、フィリピン） |
| 兵庫県企業（冷凍ホタテ、帆立加工品） | × | バイヤー（チリ） |
| 大阪府企業（水産冷凍品、イクラ漬け） | × | バイヤー（英国、フィリピン、カンボジア） |
| 愛媛県企業（鮮魚、水産加工品） | × | バイヤー（英国、フィリピン、カンボジア） |
| 福岡県企業（紅鮭） | × | バイヤー（米国、マレーシア） |

- メキシコは人口1.3億人の大市場で、日墨EPAとCPTPPも発効させていることから関税障壁も低い。加えて、2018年末からメキシコ政府は、日本政府が発行する水産物衛生証明書による輸入を認めている他、施設認定も要求しておらず、他国に比べメキシコ向け水産物輸出の手続き面での障壁は低い。
- ジェトロは上記背景から、メキシコを対象に以下の取り組みを実施。
 - 5月末から6月頭にメキシコ人インフルエンサーを岩手・宮城・福島・茨城に招へいし、三陸・常磐の漁場や水産物および東北の日本酒・コメの魅力をメキシコはじめ世界のスペイン語圏に向けて発信。
 - 7月19日、メキシコシティで「東北・三陸・常磐もの水産物・酒類」の試食・試飲会を開催。水産17社・32商品、酒類17蔵元・40銘柄の商品をメキシコに直送し、現地インポーターや飲食店関係者が試食・試飲した。
- 今回、上記試食・試飲会に出品した国内事業者のうち27社が、**メキシコバイヤー6社とJapan Streetを通じ9月から11月の期間に断続的にオンライン商談を約40件実施。11月末時点で30件超の成約（見込み含む）創出。**

#mexicoのページを開設し商談



Hashtag: "#mexicopj_products" result

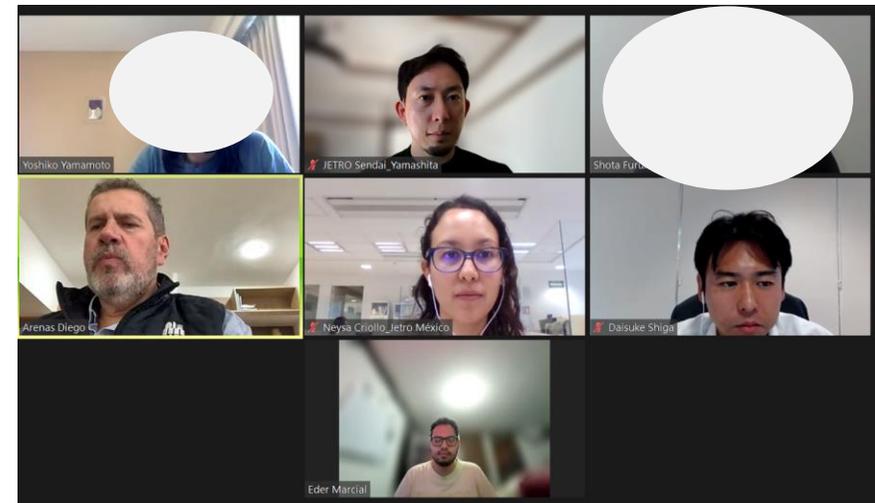
商品

#mexicopj_products

検索する 🔍



オンライン商談の様子



- 中小機構の中小企業大学校（仙台校）の食堂にて、**三陸・常磐もの食材を使った特別企画メニューを提供した。**
- 中小機構の懇親会にて、**三陸・常磐ものネットワーク弁当を購入し、「三陸・常磐もの」の消費拡大を実施。**

10/18・11/9 中小企業大学校（仙台校）食堂にて消費拡大の取組

◆企画概要

- ・開催日時：2023年10月18日（水）・11月9日（木）昼食
- ・中小機構は、三陸・常磐ものネットワーク参画メンバーである「株式会社ニッコトラスト」と協力し10月18日に「しらす＆ネギトロ丼」・「サンマの竜田揚げ」を、11月9日に「三陸マグロのマスタードカツ」・「フカヒレスープ」定食を500円で提供した。

株式会社ニッコトラスト

<https://www.nikkotrust.com/corporate/outline.html>



福島の水産物応援メニュー
10/18（水）～福島産～

- ・しらす＆ネギトロ丼
- ・サンマの竜田揚げ
- ・あんかけきのごソース
- ・わかめとお麩のお吸い物

▲10月18日特別メニュー



福島の水産物応援メニュー
11/9（水）～福島産～

- ・三陸マグロのマスタードカツ
- ・炊き合わせ
- ・フカヒレスープ
- ・ごはん

▲11月9日特別メニュー



▲11月9日 食堂風景



10/31 消費拡大

◆企画概要

- ・開催日時：2023年10月31日（水）懇親会
- ・中小機構では、懇親会で、三陸常磐お弁当を購入し消費拡大を実施。また、三陸・常磐もの海産物や三陸常磐ものネットワークについて学ぶ時間を設けた。



▲10月31日懇親会の風景

- 東京電力が福島県産品の美味しさや魅力を伝えるために実施している「発見！ふくしま」の取り組みの一環として、12月2日～3日、栃木県の「道の駅うつのみや ろまんちっく村」で手ぶらでBBQイベントを行い、福島県産食材や北海道産ホタテなどを提供する。
- 12月16日～17日、沖縄県の「あまわりパークイベント広場」にて、手ぶらでBBQイベントを行い、福島県産食材や北海道産ホタテなどを提供する。

手ぶらでBBQ in 道の駅うつのみや ろまんちっく村

- 日程：12月2日（土）、12月3日（日）
- 場所：道の駅うつのみや ろまんちっく村（栃木県宇都宮市）



▲会場イメージ

手ぶらでBBQ in あまわりパーク 勝連城跡

- 日程：12月16日（土）、12月17日（日）
- 場所：あまわりパーク（沖縄県うるま市）



▲会場イメージ

- 12月9日～17日、**メキシコシティにある日墨会館内の和食レストランにて、福島県オリジナルブランド米「天のつぶ」を使用したメニューを提供**し、福島県産米の美味しさをPRするフェアを開催する。
- 10月23日～12月30日、**首都圏の飲食店20店舗と連携し、「福島牛」&「常磐もの」を使用したオリジナルメニューを提供**するグルメフェアを開催する。

メキシコレストランフェア

- 日程：12月9日（土）～12月17日（日）
- 場所：日墨（にちぼく）会館（メキシコシティ）



▲提供メニュー（イメージ）

▲日墨会館（イメージ）

福島牛&常磐もの グルメフェア

- 開催期間：10月23日（土）～12月30日（土）



▲店舗情報



▲提供メニュー（イメージ）

- 11月23日～26日の4日間、お台場青海地区特設会場で「**SAKANA & JAPAN FESTIVAL 2023**」と連携し、「**発見！ふくしま**」12ブースを出店し、福島県産「常磐もの」をはじめとした県産水産物のPRイベントを開催した。**約173,000人が来場し、約34,000食を販売**した。
- 11月18日、19日の2日間、**二子玉川ライズ ガレリア**で、**福島県産の新米PRイベント**を開催し、キッチンカーでは、福島県産具材を使用した「おむすび」や常磐もの「さんまのポーポー焼き」など、**新米約300kg、約2,300食を販売**した。

発見！ふくしまお魚まつり in お台場



▲会場の様子

発見！ふくしまキャンペーン in 二子玉川ライズ ガレリア



▲キッチンカー前



▲新米販売ブース



▲ノドグロ&はねる生エビ入り
ふくしま全部のせ丼



▲ほっき飯



▲さんまのポーポー焼き

理解釀成

- 2023年11月に開催された福島県内の各種イベントにおいて、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉やALPS処理水に関するブースを出展。**来場者の方々に福島第一原子力発電所のジオラマを用いて説明をする**とともに、**パンフレット等の配布を行った。**

相馬原釜魚市場まつり(11/4)の様子

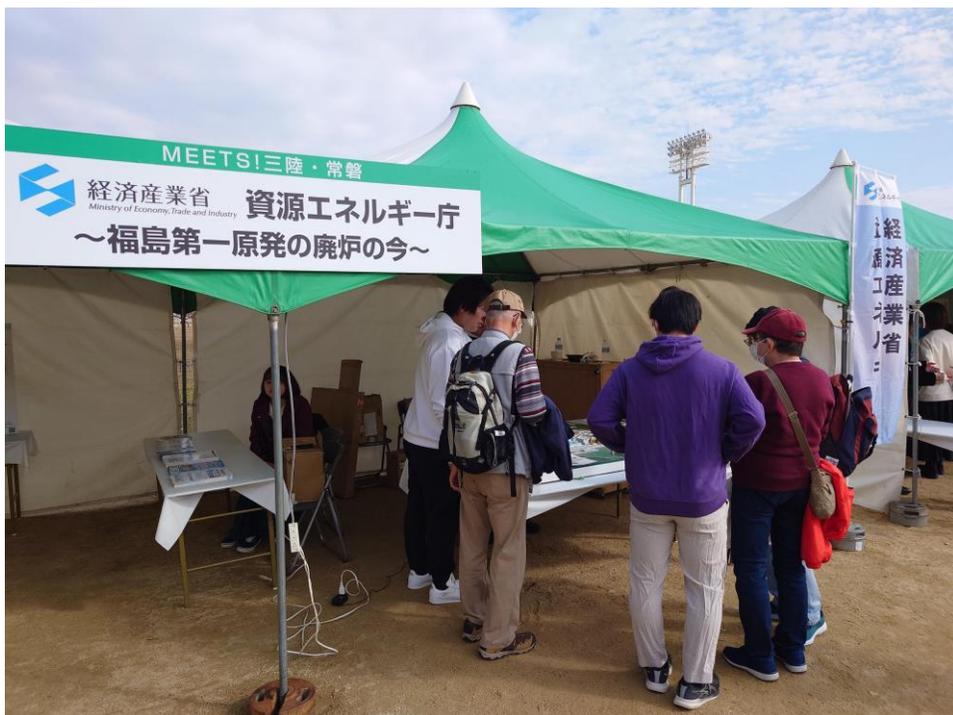


復興なみえ町十日市祭(11/18-19)の様子



- 2023年11月23日に大阪城公園で開催された「OBCラジオまつり ふれあい広場2023」において、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉やALPS処理水に関するブースを出展。来場者の方々に福島第一原子力発電所のジオラマを用いて説明をするるとともに、パンフレット等の配布を行った。

OBCラジオまつり ふれあい広場2023



- 2023年11月6日に大阪、11月15日に東京において、食品に関するリスクコミュニケーション「食品中の放射性物質と復興の歩み」を消費者庁、内閣府食品安全委員会、厚生労働省、農林水産省と連携して実施し、消費者に、**ALPS処理水の科学的な安全性も含め、食品中の放射性物質に関して情報提供**を行った。

大阪会場の様子



東京会場の様子



- 2023年11月9日に福島県庁が主催する「令和5年度ふくしま観光商談会」において、主に首都圏発の旅行商品を造成する旅行会社の担当者に対して、**福島第一原発の廃炉の状況やALPS処理水の安全性について説明**を行った。

「令和5年度ふくしま観光商談会」の様子



- **ALPS処理水に係るモニタリングの結果を一目でわかるマーク形式で表示**するページについて、**Yahoo!JAPANのトップページにバナー広告を掲載。**

ALPS処理水に係るモニタリングページ（抜粋）

ALPS処理水に係るモニタリング

ALPS処理水は、放出前に、含まれる放射性物質の濃度測定を行い、安全基準を下回っていることを必ず確認するなど、厳格に管理されて放出が行われることから、近傍に生息する魚などの食品の安全上の問題は生じません。さらに、放出前後で、海水、魚類、海藻類のモニタリングを強化して実施し、状況を確認していきます。

ALPS処理水の分析結果

放出完了した水 ※

東京電力及び第三者機関のJAEAが放出前のALPS処理水の分析を行い、いずれも基準を満たしていることを確認しました

※6月26日に採取を行ったALPS処理水（K4-Cタンク）
※基準：トリチウム以外の告示濃度比総和1未満

放出完了した水 ※

東京電力及び第三者機関のJAEAが放出前のALPS処理水の分析を行い、いずれも基準を満たしていることを確認しました

※7月10日に採取を行ったALPS処理水（K4-Aタンク）
※基準：トリチウム以外の告示濃度比総和1未満

東京電力福島第一原子力発電所近傍海域のモニタリング結果（海水・魚に含まれるトリチウム）

現在の状態 ※

異常なし

※最新の各種関での分析結果をもとにしています

凡例

- 異常なし：「放出停止判断レベル」（設備の運用状況等の確認が必要な指標）を超えていないときに表示
- ⚠ 「放出停止判断レベル」を超えたときに表示

※「放出停止判断レベル」は、「放水口付近で700Bq/L」「放水口付近の外側10km四方内で300Bq/L」と定めています。これらを超えた場合でも、周辺海域のトリチウム濃度は安全基準60,000 Bq/LやWHO飲料水基準10,000 Bq/Lを十分下回り、周辺海域は安全な状態です。

Yahoo!JAPAN バナー広告

みんなで知ろう。考えよう。ALPS処理水のこと

周辺の海の状態はどうなっているの？

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

みんなで知ろう。考えよう。ALPS処理水のこと

海水や魚は大丈夫なの？

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

ページはこちら



- 「ALPS 処理水について知ってほしい5つのこと」をそれぞれ1分程度でわかりやすく解説する動画について動画広告を展開。
(動画はそれぞれ画像左下の2次元コードからご覧いただけます。)

1分程度でわかりやすく解説する動画

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
ALPS 処理水って何？
本当に安全なの？



- ① ALPS処理水って何？
本当に安全なの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
トリチウムって何？



- ② トリチウムって何？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
なぜALPS処理水を
処分しなければならないの？



- ③ なぜALPS処理水を
処分しなければならないの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
本当に海洋放出をしても
大丈夫なの？



- ④ 本当に海洋放出をしても
大丈夫なの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
近海でとれた魚は
大丈夫なの？



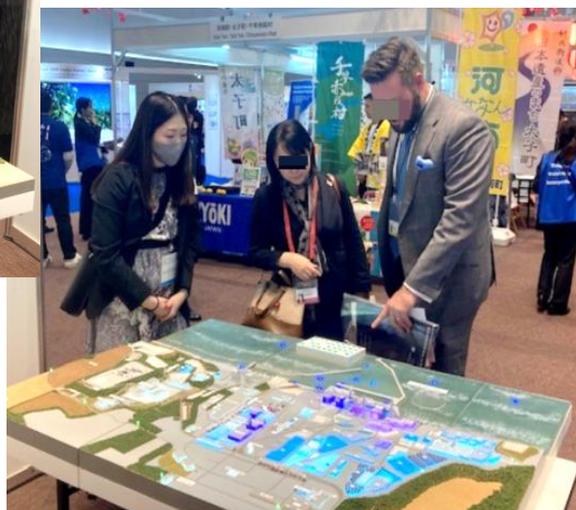
- ⑤ 近海でとれた魚は
大丈夫なの？

- 2023年10月31日、**東京電力福島第一原子力発電所のALPS処理水の現状に関する香港メディア向け説明会を開催。**
- 日本側からALPS処理水の取扱いに関するこれまでの取組を改めて説明するとともに、**海洋放出開始後モニタリングを実施しており、結果について透明性高く迅速に公表しており、安全であることを確認していることを説明した。**
- また、日本側から香港側に対し今後とも科学的データを提供し、**香港が現在実施している日本産食品及び農産物に対する輸入規制を早期に撤廃することを求めた。**
- 日本側のALPS処理水に関する説明に対する香港のメディアからの質問に対し、質疑応答を行った。

■ 出席者

- 日本側：岡田健一 在香港総領事、
高島昌明 経済産業省大臣官房福島復興推進グループ廃炉・汚染水・処理水特別対策監
道野英司 農林水産省輸出・国際局審議官（ほか）
- 香港側：明報、大公報、Now TVなどの当地メディア
その他、日引俊詞教授、ジェラルディン・トーマス教授が出席

- 10月28日、29日に大阪・堺で開催されたG7貿易大臣会合でのExhibitionにおいて、東京電力福島第一原子力発電所のジオラマを展示し、各国・地域からの参加者及び外国メディアに対し、ALPS処理水海洋放出の安全性等について説明。



▲各国・地域からの参加者への説明の様子



▲2025大阪・関西万博公式キャラクターのミyakumyakkuも東京電力福島第一原子力発電所のジオラマを観察

- 2023年11月14日、第2回日米経済政策協議委員会（経済版「2+2」）が米国のサンフランシスコにて開催され、経済産業省から西村経済産業大臣が参加。外務省からは上川外務大臣も参加。米国側からジーナ・レモンド商務長官及びアントニー・ブリンケン国務長官が参加。
- 4閣僚は、インド太平洋地域におけるルールに基づく経済秩序の強化、経済的強靱性の強化及び重要・新興技術の育成・保護の2つの議題について議論した。
- **日本側から、ALPS処理水の海洋放出に対する米国からの継続的で力強い支持・支援に改めて謝意を述べた上で、4閣僚は、科学的根拠に基づかない輸入規制措置は直ちに撤廃されるべきであることについて確認した。**
- 共同声明において、**日本産食品に対する輸入規制は直ちに撤廃されるべきであること、日本のALPS処理水放出の計画に満足していることを再確認した。**



▲左から西村大臣、上川大臣、ブリンケン国務長官、レモンド商務長官



▲日米4閣僚による会談

- 2023年11月14日、15日、APEC閣僚会議が米国のサンフランシスコにて開催され、経済産業省から西村経済産業大臣が参加。外務省からは上川外務大臣も参加。
- 同会議の機会を捉まえ、**中国、韓国、香港、インドネシア、マレーシア、シンガポール、フィジーの代表と、APEC関係閣僚会議の成功に向けた協力や二国間経済関係について意見交換を行った。**
- 中国及び香港とのバイ会談において、西村大臣から、**ALPS処理水の海洋放出の安全性について説明し、日本産食品輸入規制の即時撤廃を求めた。**
- マレーシア、シンガポール、及びフィジーとのバイ会談において、西村大臣から、**ALPS処理水の海洋放出について、日本の立場に理解を表明していることに謝意を示すとともに、引き続き高い透明性をもって情報提供をしていく旨を述べた。**



▲西村大臣（左）と王文涛・中国商務部長（右）



▲西村大臣とザフルル・アジズ・マレーシア投資貿易産業大臣との会談

- その他**様々な機会・あらゆるレベル**で、ALPS処理水の海洋放出に関する**発信**や**働きかけ**を実施。

1. 日・マレーシア首脳会談

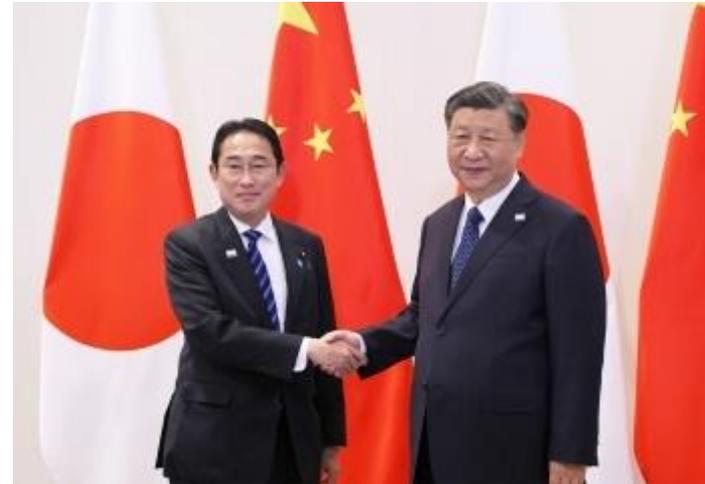
- ✓ 2023年11月5日（日）、**岸田総理は、マレーシアを訪問し、アンワル・イブラヒム・マレーシア首相と会談を行った。**
- ✓ 本首脳会談において、日本側からは森屋内閣官房副長官、森内閣総理補佐官他が、マレーシア側からはザンブリー外務大臣、ラフィジ経済大臣、ザフルル投資貿易産業大臣、カレド高等教育大臣、ファミ通信デジタル大臣他が出席。
- ✓ **アンワル首相から、ALPS処理水に関し、科学的根拠に基づく日本の取組を評価する旨を述べた。**

2. 日中首脳会談

- ✓ 2023年11月16日（木）、APEC首脳会議に出席するため、米国を訪問中の**岸田総理は、習近平・中国国家主席と会談を行った。**
- ✓ 両首脳は、本年に入り、外務、経済産業、防衛、環境分野の閣僚間の対話が成功裏に開催されたことを歓迎した上で、引き続き首脳レベルを含むあらゆるレベルで緊密に意思疎通を重ねていくことで一致した。
- ✓ **岸田総理からは、ALPS処理水の海洋放出について、科学的根拠に基づく冷静な対応を改めて強く求めるとともに、日本産食品輸入規制の即時撤廃を求めた。**



▲日・マレーシア首脳会談



▲日中首脳会談

安全確保

東京電力

- 海水中トリチウムを測定。
- 放出後当面の間、発電所から3 km以内の10地点で毎日、迅速分析を実施。

水産庁

- 水産物は年約380検体でトリチウムを測定。
- 放出後当面の間、①放水口の北北東へ約4 km、②放水口の南南東へ約5 kmの2地点で、迅速分析を実施。

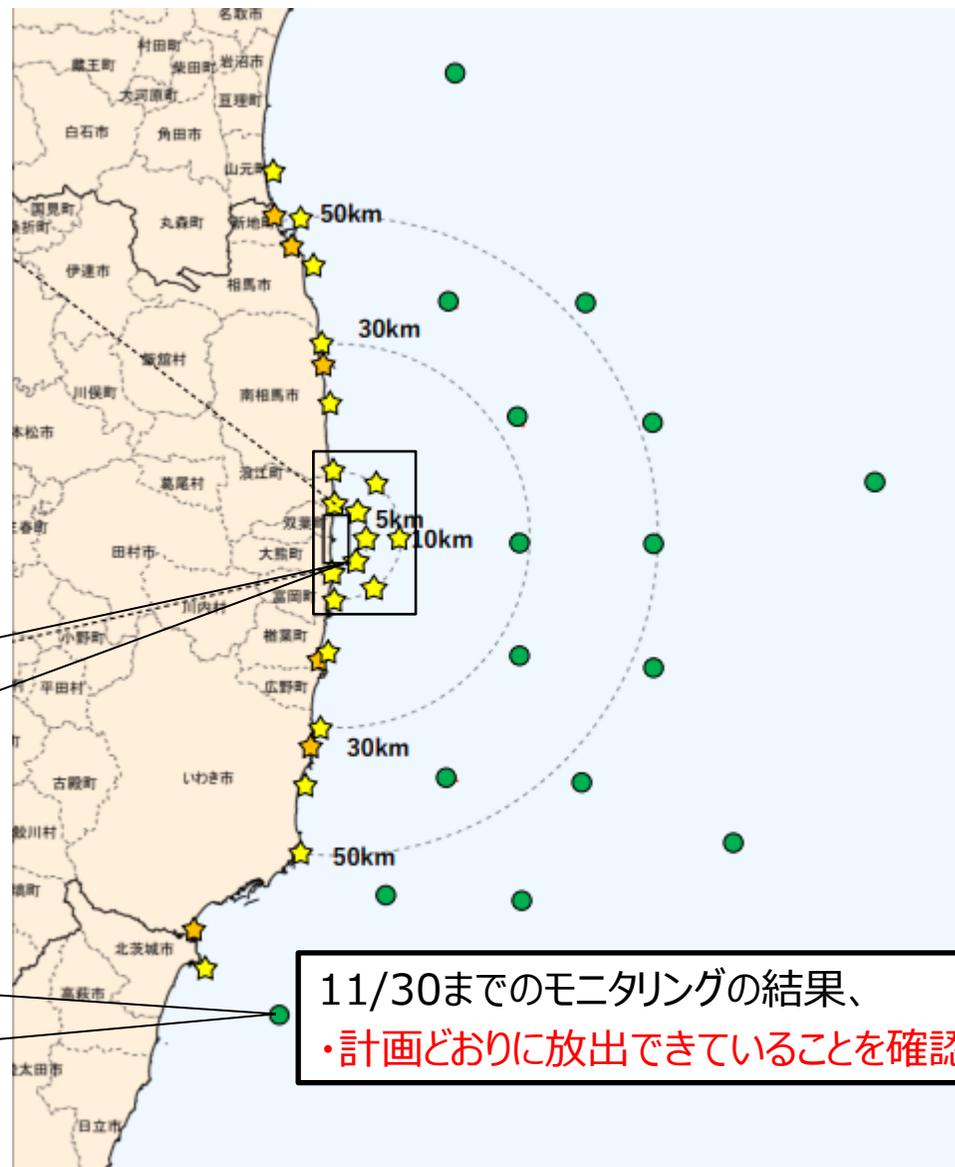
環境省

- 海水中トリチウムを測定。
- 放出後当面の間、11地点で週1回迅速分析を実施。
(海水浴場においても海水中トリチウムを測定) ★

原子力規制庁

- 海水中トリチウムを精密分析にて測定。
- 20km以上離れた海域や、宮城県沖南部、茨城県沖北部でも、精密分析を実施。 ●

【広域図】



- 昨年8月から、東京電力が、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉の取組について、**定期的に地元紙（福島民報、福島民友、河北新報、岩手日報、茨城新聞）に広告を掲載。**
- 本年11月も2回掲載しており、今後も**月1～2回の頻度で継続的に実施を予定。**

新聞への広告掲載内容（左上：モニタリング状況のお知らせ、右下：第31回）

広告

福島第一原子力発電所「周辺海域のモニタリング状況」のお知らせ (2023年11月)

東京電力ホールディングスは2022年4月から、発電所近傍や福島県沿岸の海域において、トリチウムを含む放射性物質の監視（モニタリング）を強化しています。

海域モニタリングにおけるトリチウム濃度は、運用上の指標（放出停止判断レベル：700ベクレル/ℓ）を大きく下回る結果となっています。引き続き、ALPS処理水の海洋放出における安全性の確保に万全を期してまいります。

3km圏内（港湾内を除く）
20km圏内

エリア	海水の測定結果【単位：ベクレル/ℓ】 （10月1日～10月末までに得られた測定結果の最大値）
トリチウム （迅速測定）	22
3km圏内	検出せず（<7.5）
20km圏内	検出せず（<0.96）
セシウム134	検出せず（<0.0014）
20km圏内	検出せず（<0.85）
3km圏内	0.046
20km圏内	

※「<」の付いた数値は検出下限値、検出下限値を下回った場合は、検出せずと記載
※トリチウムの検出下限値をリットルあたり10ベクレル程度とし、測定時間を短縮して迅速に結果を算出。

【参考】トリチウム濃度の比較

単位：ベクレル/ℓ

80,000	国の規制基準（排水口）**
10,000	WHO（世界保健機関）飲料水ガイダンス
700	放出停止判断レベル**（発電所から3km以内）
350	調査レベル**（発電所から3km以内）
20	日本全国の海水** 過去の変動範囲

※1. 原子力発電の排水口から出る水。毎日、その濃度が約21倍に濃縮される。年間一度
※2. 1リットルあたり
※3. 1リットルあたり
※4. 1リットルあたり

海域モニタリングの結果

当社が測定した海水や海産物の放射性物質濃度は、**有意な変動は確認されていません。**
詳細は弊社ホームページをご覧ください。
<https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/water/treatment/monitoring/>

包括的・海域モニタリング観測システム（ORBS）

当社以外の各機関（環境省、水産庁、原子力規制委員会、福島県）が測定した海水および水産物の放射性物質濃度も**有意な変動は確認されていません。**
詳細は各機関の分析結果を一元的に確認できるORBSをご覧ください。
<https://www.monitrorbs.jp/>

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー（福島県双葉郡大熊町大字沢字

広告

福島第一原子力発電所の廃炉の現状と取組みをお伝えします Vol.31 【ALPS処理水に関する情報発信③】

福島第一原子力発電所の放射能によるリスクを継続的に低減する「廃炉・汚染水・処理水対策」の取組みについてお知らせします。「復興と廃炉の両立」に向けて、廃炉を安全かつ着実に進めてまいります。

東京電力ホームページ内の「処理水ポータルサイト」では、ALPS処理水の海洋放出に関する様々なデータを発信しています。今回ご紹介する「希釈・放水設備」では、ALPS処理水や海水の移送流量、海水で希釈後の水のトリチウム濃度をリアルタイムでご覧いただけます。

希釈・放水設備 現在、海洋放出中（11月8日現在）

現在、海洋放出中（11月8日現在）

現在、ALPS処理水の移送流量
19 m³/h

現在の海水移送流量
15,149 m³/h

希釈後ALPS処理水トリチウム濃度**
188 Bq/ℓ

▼よくいただく質問

Q. 希釈前のALPS処理水のトリチウム濃度は？
13万 Bq/ℓ

Q. 今どれくらいの量のALPS処理水を移送しているの？
19 m³/h

Q. 今どれくらいの量の海水で希釈しているの？
15,149 m³/h

Q. 希釈後の水のトリチウム濃度はどれくらい？
188 Bq/ℓ

※1.500Bq/ℓ未満に近づいているの？
※1.500Bq/ℓ未満に近づいているの？

ALPS処理水に関する情報はこちらをご覧ください
▶【処理水ポータルサイト】
<https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/water/treatment/>

希釈・放水設備に関する情報はこちらをご覧ください
▶【希釈・放水設備の状況】
<https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/water/treatment/discharge/facility/>

福島第一原子力発電所の廃炉・汚染水・処理水対策に関する情報はこちらをご覧ください
▶【廃炉・汚染水・処理水対策】
<https://www.tepco.co.jp/decommission/voice.html>